

令和4年度
農福連携等応援コンソーシアム総会
議題2 関連資料

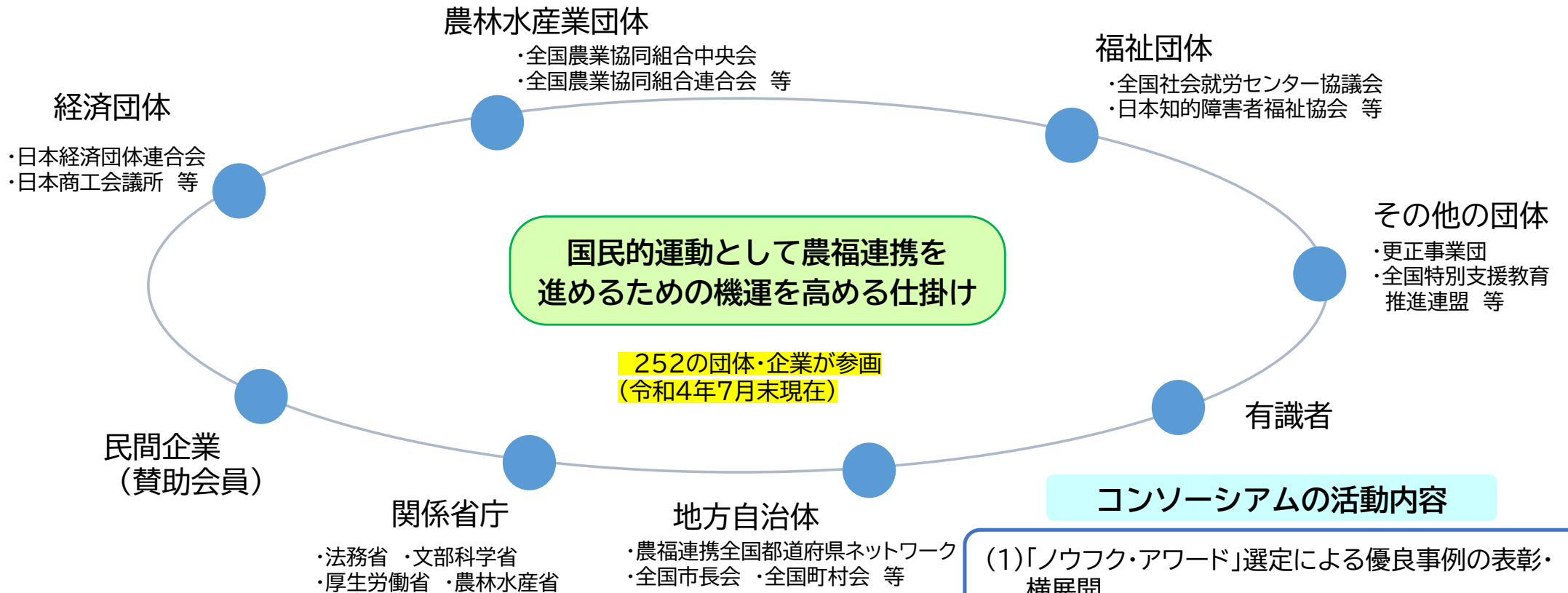
農福連携等応援コンソーシアム 令和3年度の活動と 令和4年度の実施計画（案）について

令和4年8月2日
農福連携等応援コンソーシアム事務局

農福連携等応援コンソーシアムについて

国、地方公共団体、関係団体等のもとより、経済界や消費者、更には学識経験者等の様々な関係者を巻き込んだ国民的運動として農福連携等を展開していくため、令和2年3月、各界の関係者が参加し、農福連携等を応援するコンソーシアムを設立。

農福連携等応援コンソーシアムの構成



コンソーシアムの活動内容

- (1)「ノウフク・アワード」選定による優良事例の表彰・横展開
- (2)農福連携等を普及・啓発するためのイベントの開催
- (3)農福連携等に関する主体の連携・交流の促進
- (4)農福連携等に関する情報提供 等

コンソーシアム入会に関するお問合せ先
 農林水産省 農村振興局 農村政策部 都市農村交流課 農福連携推進室
 TEL:03-3502-0033
<https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/noufuku/conso.html>

令和3年度 農福連携等応援コンソーシアムの取組について

(1) 農福連携等応援コンソーシアム総会

- ・開催日：10月6日@農林水産省（オンライン併用）

(2) ノウフク・アワード

- ・募集期間：令和3年9月16日～11月12日
- ・応募総数：205団体（前年度195団体）
- ・表彰式：令和4年3月8日
@新宿マイナビルーム（オンライン併用）
- ・受賞者：25団体
（グランプリ、審査員特別賞、優秀賞、フレッシュ賞、チャレンジ賞）



(3) ノウフク・ラボ

- ・トイレ、ウェアラブル、ショップの3つのテーマで開催
- ・ショップラボの活動としてノウフクショップの開催（11月15日@新宿マルイ）
- ・中間報告会の開催（令和4年2月8日@新宿マイナビルーム（オンライン併用））

※ノウフク・アワード表彰式、ノウフク・ラボ中間報告会については、
ノウフクアンバサダーのTOKIO城島茂様の参画を得て実施

「ノウフク・アワード2021」表彰25団体

詳しい取組概要は
こちら「QRコード」

No. 4 静岡県 浜松市

京丸園株式会社

- ・障害者と健常者の垣根がないユニバーサル農業の取組
- ・農作業や施設環境は障害者目線で工夫

グランプリ

No. 7 京都府 京田辺市

さんさん山城

- ・地域特産・地産地消・6次産業・地域活性化の取組を推進
- ・ノウフクJASと京野菜の普及啓発、地産地消に貢献

グランプリ

No. 2 群馬県 前橋市

社会福祉法人ゆずりは会 菜の花

- ・平均工賃が全国平均の3倍とモチベーション維持に寄与
- ・利用者にあった作物を栽培し年間就労の維持に貢献

審査員特別賞
(人を耕す)

No. 5 新潟県 佐渡市

特定非営利活動法人立野福祉会 障がい者就労
トレーニングファームチャレンジド立野

- ・農福連携が地域活性化や地域農業の維持に貢献

審査員特別賞
(地域を耕す)

No. 10 徳島県 徳島市

株式会社菜々屋

- ・JAと連携し障害者と親和性の高い有機農業を推進
- ・農作業受託を行い地域の農業労働力に貢献

審査員特別賞
(未来を耕す)

No. 11 高知県 安芸市

安芸市農福連携研究会

- ・生きづらさを抱えた者への理解が広がり地域活性化に貢献
- ・農福現場の一つ一つの課題解決への取組の推進

審査員特別賞

No. 8 大阪府 和泉市

株式会社いずみエコロジーファーム

- ・ノウフクJAS取得し消費者に対してノウフクの普及に尽力
- ・販路・雇用・賃金の安定が地域農業の維持に貢献

優秀賞

No. 9 和歌山県 紀の川市

社会福祉法人一麦会 ソーシャルファーム
もぎたて

- ・付加価値のある商品作り等中山間地域の維持・発展に貢献

優秀賞

No. 12 宮崎県 宮崎市

一般社団法人STEPUP CoCoRo事業所

- ・矯正者も受け入れ、再犯防止や更正支援に貢献
- ・農福連携が地域の中心的担い手の育成に貢献

優秀賞

No. 13 鹿児島県 龍郷町

株式会社リーフエッジ あまみん

- ・障害者への個別支援及びQOLの向上への取組
- ・自治体・商工会等と連携し販路の開拓や事業創出に貢献

優秀賞

No. 1 青森県 おいらせ町

社会福祉法人誠友会 工房あぐりの里

- ・農福連携の取組が地域農業の維持・交流人口の増加に貢献
- ・企業・農業経営体・社会福祉法人等、多様な連携

優秀賞

No. 3 千葉県 木更津市

特定非営利活動法人 一粒舎

- ・農地の受け手となり荒廃農地の発生抑制に貢献
- ・観光農園と施設園芸により高工賃の実現

優秀賞

No. 6 三重県 鈴鹿市

株式会社イシイナーセリー

- ・障害者雇用を通じて地域の植木産業を支える取組を推進
- ・高賃金の実現と一般就労へのつながりに貢献

優秀賞

フレッシュ賞

No. 14 新宿区障害者福祉事業所等ネットワーク
(東京都新宿区)No. 15 特定非営利活動法人わっこ谷の山福農林舎
(長野県東筑摩郡筑北村)

No. 16 CuRA! (新潟県新潟市)

No. 17 株式会社JAぎふ はっぴいまるけ
(岐阜県岐阜市)

No. 18 遊士屋株式会社 (三重県伊賀市)

No. 19 うりずんファーム ウィルチャーファーム
(沖縄県沖縄市)

チャレンジ賞

No. 20 社会福祉法人青森県すこやか福祉事業団
(青森県平内町)

No. 21 福島県立大笹生支援学校 (福島県福島市)

No. 22 帝人ソレイユ株式会社我孫子農場
ポレボレファーム (千葉県我孫子市)No. 23 社会福祉法人進和学園しんわルネッサンス
(神奈川県平塚市)No. 24 社会医療法人正光会さんさん牧場
(島根県益田市)

No. 25 社会福祉法人太陽福祉会 (和歌山県御坊市)

令和3年度 ノウフク・ラボ（課題解決プロジェクト）の取組

- 農福連携等応援コンソーシアムの下に、各界が連携し、対話を通じて社会課題の解決や、新たな価値創造を図るプラットフォームを設置。令和3年度は、トイレ、ウェアラブル、ショップの3テーマで議論。

安心できる作業環境を

IT × ノウフクの可能性

つながりの探求



現場の安心

ノウフク・アワード 2020 表彰式後のトーク

Why セッションでトイレ問題がクローズアップ。活動領域が広がる中、解決すべき課題だ。

How ほ場でも環境負荷の少ないトイレや車載型トイレなどさまざまな可能性を検討する。



現場の安全

Why 障害者は体温調節が低く、熱中症リスクが高い傾向にある。またノウフクの効果を定量的に分析できていない。

How バイタルセンサーで熱中症の予兆を検知し、健康を管理する。障害者の農作業等を行うことによる肉体的・精神的効果を測定する。



販路の拡大

Why 価格の設定や商品の質、生産量の不足など、流通に関する問題が多く、十分な販路を確保できていない。

How マルイ首都圏店舗で常設アンテナショップを設置し、売るだけでなく、情報発信の場として機能させる。

課題抽出の基盤づくり

令和3年度は、例えばトイレラボについては、「どこでも、だれでも、いつでもトイレ」を目指すべく、自動車メーカーのモビルトイレの先進事例を学ぶとともに、バイオトイレ、段ボールトイレキット等の様々なトイレについて、現場での活用を進めるべく議論を実施。

令和4年度 農福連携等応援コンソーシアムの活動方向（案）

〔基本方針〕

農福連携等推進ビジョンに示された「取組の輪の拡大」に向け、ノウフク・アワードの開催を通じた優良事例の発掘とその横展開等に取り組む

優れた取組を表彰する

ノウフク・アワード

ノウフク商品を通じて
広く国民に発信する

ノウフクマルシェ

農福連携等応援コンソーシアムの運営



現場課題を抽出し、
連携して解決する

ノウフク・ラボ

農福連携の現状を
正しく知る

アンケート調査

各メディアと協力した
情報発信

農福連携の推進

連携



農福連携等応援コンソーシアムの活動（R4）

① ノウフク・アワード2022

○全国で農福連携に取り組む団体・企業や個人を募集し、農福連携の優れた取組をノウフク・アワードとして表彰。国民運動としての機運を高め、農福連携の全国的な展開につなげることを目的として開催。

○令和2年度にノウフク・アワード2020を初開催。令和3年度のノウフク・アワード2021においては、「人を耕す」「地域を耕す」「未来を耕す」との観点から優れた取組を表彰するとともに、農福連携の新たな動きや広がりに着目し、「フレッシュ賞」、「チャレンジ賞」を新設。

○令和4年度のノウフク・アワード2022においては、前年度の枠組みを維持しつつ、「審査員特別賞」を「準グランプリ」へと呼称変更を行った上で開催。

ノウフク・アワード2022

- ・募集期間：令和4年8月3日（水）～10月3日（月）
- ・表彰式：令和5年2月に開催予定
- ・概要：人を耕す、地域を耕す、未来を耕すとの観点から優れた取組に対し以下の賞を授与
 「グランプリ」「準グランプリ」「優秀賞」
 「フレッシュ賞」（取組開始5年以内の優れた取組）
 「チャレンジ賞」（「農」や「福」の広がりに向けた取組）



農福連携の優れた取組の横展開へ

農福連携等応援コンソーシアムの活動（R4）

②ノウフク・ラボ

ノウフク・ラボ 具体的な課題解決ラボ



安心できる作業環境を

スマート農福で安全に

「三方良し」の販売戦略を

ビジネスに結びつける

ラボ01 トイレ

安心できる作業環境を



Why

ノウフク・アワード 2020 表彰式後のトークセッションでクローズアップされたトイレ問題は、農福連携の活動領域が広がる中で喫緊の課題です。

How

2021 年度のトイレラボを継続し、導入に向けた議論を加速化。トヨタの協力も得て車載型トイレや環境負荷の少ないトイレなどをアンケートをもとに検討し、結果を公表します。

With

専門家や自動車メーカーなど

ラボ02 テクノロジー

ノウフク×テクノロジーの可能性



Why

テクノロジーにより障害者の就労環境が改善されることが期待されます。2021 年度のラボでは、バイタルセンサーによる熱中症予兆検知が障害者だけでなく、職員や農家にとっても有効だとわかりました。生産性第一のテクノロジーではノウフク関係者のやりがいや安全性の確保などは難しいです。

How

生産性よりもやりがいやノウフク現場の安全性が高まるテクノロジーを特定すべく、ノウフク現場やIT 企業など多様な意見をまとめて公開します。

ラボ03 販路拡大

「三方良し」の販売戦略を



Why

価格の設定や商品の質、生産量の不足、一般の流通に乗せられないなど販売に関する課題は多いです。

How

2021 年度のショップラボを販路拡大ラボとして引き継ぎ、作成した営業ツール等を活用したり、ノウフクマルシェやノウフク座談会と連動したりして流通業者やその先の生活者に訴求します。座談会との連動では、取引の成否の背景を分析します。また輸出戦略について、専門家を呼んで検討。

ノウフク座談会

ビジネスに
結びつける



2021 年度のショップラボなどを通じて流通のプロと関わりができ、すでにノウフク製品の取り扱いに関心がある食品メーカーや小売業者などの紹介を受けています。

同年度に実施したノウフク製品の生産量調査を活用し、生産者と食品加工や流通の業者を集めた座談会を3回開く予定です。

農福連携等応援コンソーシアムの活動（R4）

③ ノウフク・マルシェ等

ノウフク・マルシェの開催

令和2年度に開催以降、新型コロナウイルスの感染状況に鑑み開催を見送ってきたところであるが、令和4年度は、感染状況等を見極めつつ、10月に開催予定



アンケート調査の実施

農福連携の現状を把握するために平成30年度に実施した「農福連携アンケート調査」について、現状の把握に向け、今年度中に新たなアンケート調査を実施

農業経営体への効果

農福連携に取り組む農業経営体の、

- **76%**が「障害者を受け入れて貴重な人材となった」と認識 (n=109)
- **57%**が「労働力確保で営業等の時間が増加」と認識
- **78%**が5年前と比較して年間売上額が増加 (n=120)

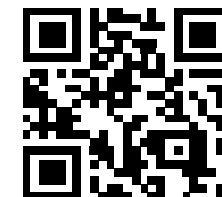
障害者にとっての影響

農福連携に取り組む障害者就労施設の、

- **79%**が「利用者が体力がついて長い時間働けるようになった」、**62%**が「利用者の表情が明るくなった」と回答 (n=573,606)
- **74%**が過去5年間の賃金・工賃が増加 (n=696)

ノウフクWEBによる情報発信

農福連携に関する活動の詳細については、
農福連携専用ポータルサイト「ノウフクWeb」も是非ご覧下さい。



ノウフクWEB
<https://noufuku.jp/>



みんなで耕そう！ ノウフク・プロジェクト

ノウフク(農福連携等)が、社会にうねりを起こしています。

ノウ(自然、農林水産業)とフク(人、福祉)の連携から、多様な役割と場をつくり、一人ひとりの存在を喜べる共生社会へ。地域の様々な課題を解決し、その価値が語られる市場の創出へ。豊かさの意味を問い直す、持続可能な未来へ。

ノウフク・プロジェクトは、ノウフクの価値を循環させるためにみんなが主体になって参加できる、新しい社会デザインのしくみです。

ノウフク・プロジェクトについて



NOW

2022年7月1日

富山県

YouTubeチャンネルで「農福連携導入サポート動